



新緑の中、朝陽をあびての登校風景
いよいよスタート「このえ緑陽中学校」

議会だより **このえ**

No.101 2013.4.17発行

—— **3月定例会** ——

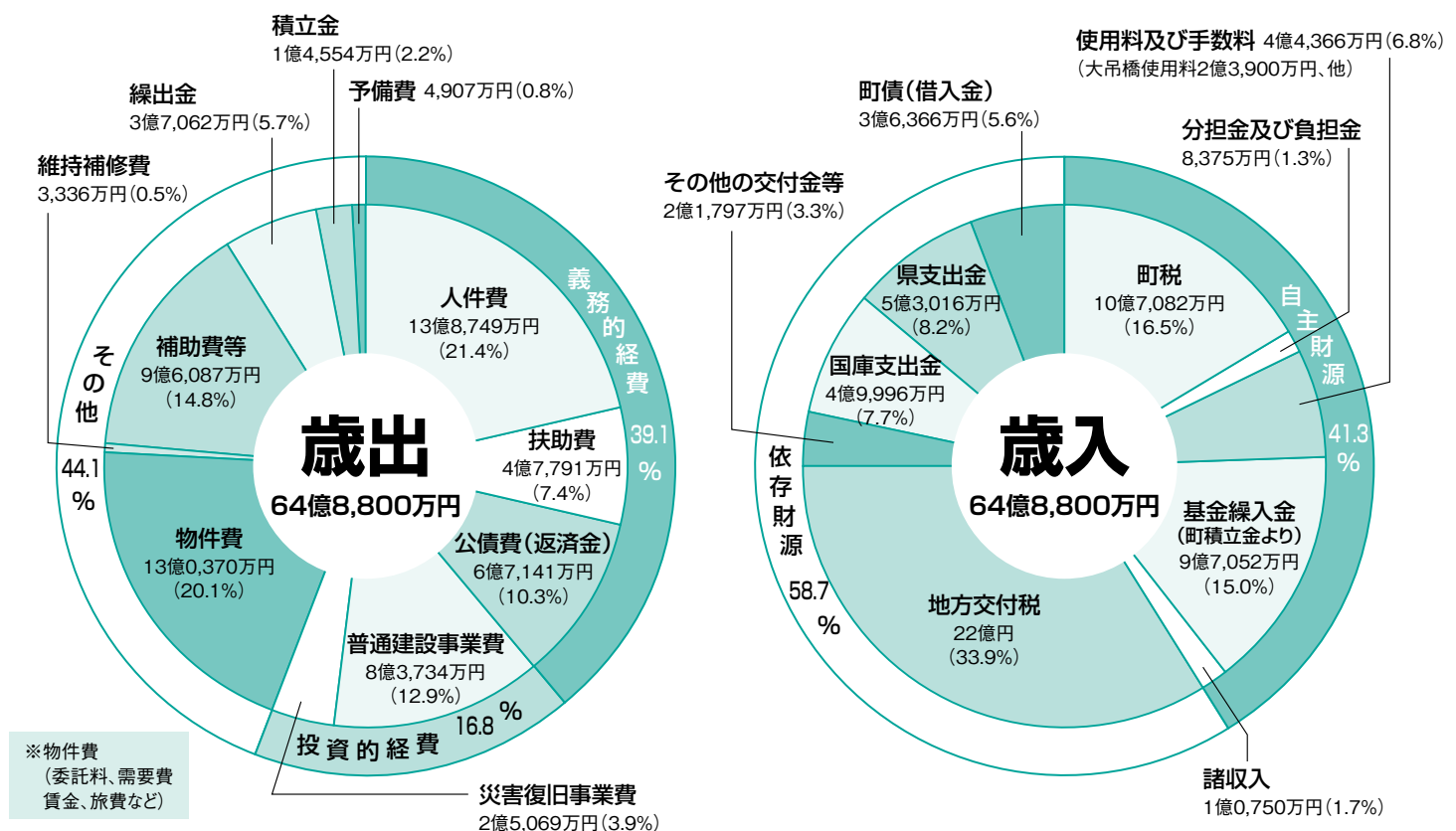
- 平成25年度予算 P.2
- 当初予算質疑 P.4
- 議長就任あいさつ P.5
- 常任委員会報告 P.6
- **一般質問 5名** P.8
- **わたしのひとこと** P.13

発行／九重町議会
編集／議会広報特別委員会
平成25年4月17日
〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809
メールアドレス(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp.

東飯田 本松 貴裕^{さん}
南山田 矢野 陽一^{さん}

平成25年度 一般会計当初予算 64億8,800万円

〔 統合中学校建設事業の完了等に伴い
前年度比**7億5,500万円**（10.4%）の減 〕



特別会計予算総額 31億9,225万8千円

国民健康保険特別会計	15億569万4千円
水道特別会計	1億2,833万1千円
同和住宅資金貸付事業特別会計	30万5千円
飯田高原診療所特別会計	7,797万7千円

介護保険特別会計	13億1,432万6千円
介護サービス事業特別会計	2,480万2千円
後期高齢者医療特別会計	1億4,082万3千円

一般会計当初予算ピックアップ

バス路線運行費補助金 4,178万円

玖珠観光バス・日田バス路線の赤字運行路線運営費補助
 〈財源〉過疎債（ソフト事業分） 3,000万円
 一般財源 778万円、他

議会運営システム導入事業費 2,000万円

庁舎議場の音響設備等改修事業委託
 〈財源〉町有施設整備基金

ケーブルテレビ業務支援委託料 1,260万円

24年度までは、取材・編集の委託、25年度から専門業者に業務支援を委託し、職員は、町内から募集
 〈財源〉ケーブルテレビ使用料

高齢者等地域支え合い事業費 3,339万円

高齢者見守りのための見守り機器（600台）の購入費と設置工事費
 〈財源〉町有施設整備基金 3,150万円
 一般財源 189万円

子ども広場遊具等整備事業費 1,847万円

20の公園の60施設の整備
 〈財源〉国からの元氣臨時交付金 1,500万円
 一般財源 347万円

高齢者肺炎球菌予防接種費助成事業費 150万円

75歳以上の予防接種希望者に、接種費のうち3,000円を助成

公的賃貸住宅整備事業費 3,850万円

民間活力により、定住促進北代住宅を建設するための設計及び敷地造成
 〈財源〉過疎債 3,800万円、他

学校給食調理・配送業務委託料 3,456万円

給食センター備品購入費（食器洗浄機他） 3,899万円

〈財源〉特防交付金 3,100万円、他

松木ダム水力発電事業負担金 1,750万円

建設工事に対する町負担25%分、25年度より工事に着手、27年度供用
 〈財源〉元氣臨時交付金 1,500万円
 一般財源 250万円

商工会商品券事業補助金 500万円

商品券10%のプレミア分助成
 〈財源〉一般財源

消防車購入事業費 1,222万円

小型ポンプ車2台（鹿伏桐木、菅原）
 〈財源〉特防交付金 1,000万円、他

消防詰所建設事業費 1,455万円

設計・解体・建築（千町無田）
 〈財源〉特防交付金 800万円
 一般財源 655万円

スクールバス運行業務委託料 5,679万円

10路線を、10台で年間300日運行
 〈財源〉一般財源

野上小学校体育館大規模改造設計委託料 560万円

地区協議会補助金 1,500万円

25年度から、本格活動する4地区協議会に、それぞれ360万円ずつの補助金（支援事業補助金80万円、3団体への補助金80万円、地区協議会雇用の職員に係る人件費200万円）と、地区協議会の独自事業に対する補助金4地区分で60万円

24年度3月 補正予算から

野矢小学校体育館大規模改造事業費 1億2,311万円

予算計上は24年度、工事は25年度に繰り越して実施

〈財源〉元氣臨時交付金 1,993万円、学校教育債 1億円、他

予算に対する質疑

歳入について

Q 基金は前年度より大きく減少しているが、今後

A 財政規律に基づき、計画性をもって対処しているが、将来的な不安がないとは言えない。

Q 町税では、固定資産税のみ減額予算となっているが。

A 昨年度、評価替が行われ今年度より減額見込みとなったものである。

歳出について

ケーブルテレビ

Q ケーブルテレビの委託は、町内で募集すべきでは。

A 町内での委託を検討したが、現状では受け皿となる法人や団体が無かったことから、ケーブルテレビの保守運営委託をしている業者に取材編集等の業務を委託したい。

中学生派遣

Q 環境保護を目的とし

た、中学生派遣事業は、中国との外交問題もあり厳しいのでは。

A 現在の状況は十分認識しており、今後の状況を見て判断する。

不妊治療費

Q 不妊治療費助成事業は、内容で大きな差があるが、一律の助成で良いのか。

A 治療費は、内容で大きく差はあるが、県より15万円、町より10万円助成している。今後の状況を見て検討する。

玖珠・九重産業雇用対策協議会

Q 協議会への負担金の割合は。

A 玖珠町6割、九重町4割で1名分の人件費を補



食の祭典を楽しむ子どもたち（飯田小）

助している。

青年就農支援

Q 青年就農給付金事業は、継続的に支援すべきでは。

A 県との共同の事業であり、西部振興局と連携していく。継続的な部分についても検討を加える。

高齢者予防接種

Q 高齢者肺炎球菌予防接種費用助成事業は、助成金額が少ないのでは。

A 各市町村で接種費が違い、一律ではないが補助で3千円予定している。

観光PR

Q 観光PR用DVD作成費に4百万、別に、広告料などで1千5百万程度計上しているが、投資効果は。

地区協議会

Q 4地区協議会への補助金1千5百万円のうち、地区協議会ごとの独自事業に対する4地区分の60万円はどのような事業に、どう配分されるのか。

また、地区協議会が職



県内一周駅伝の応援をするハッスルシルバースのみなさん（隣保館）

A 滞在型観光を目指すため、ダイジェスト版を製作し、多面的に使用しながら投資効果を上げた。また、観光協会との連携を今以上に深めて取り組む。

員を雇用するにあたっての町の支援内容と職員の雇用期間は。

A 独自事業は、予算編成までに協議が終わっていた南山田地区協議会が実施する国道387号線バイパス開通イベントに助成することになっている。他の3地区は要望が無かった。

職員雇用にかかる町の支援は、雇用契約の手順や各種保険等に係る技術的な支援。雇用期間は25年4月から1年間。

議長就任あいさつ

この度の九重町議会臨時会において、第24代の議長に推挙いただき、その責任の重要さに身の引き締まる思いです。

九重町は、町長の提唱する「日本一の田舎づくり」が、今年度より具体的に動こうとしています。また、最も重要な「第四次総合計画」も本年度始動します。九重町は、全国の地方自治がかかえる高齢化問題が顕著な地域でもあり、今後の10年間でどのような町にするのか、大切なスタートの年でもあります。

議会は、本町が直面する多くの課題に積極的に関与することは当然ですが、スピードを持って、町民の負託に応えるよう努めていきたいと考えています。

町民に信頼される議会として、諸先輩が築かれた町議会の伝統を守り、住民あつての町であることを再認識することが大切であると考え、今後も住民の皆さんのご指導とご協力をお願いして就任のごあいさつといたします。



議長
坂本 憲治



副議長
日野 康志

第4回

『おでかけ議会』を開催します。

5月

22日

1 班 野上公民館
2 班 東飯田公民館
3 班 東部集会所

23日

1 班 南山田公民館
2 班 飯田公民館
3 班 川上集会所

24日

1 班 基幹集落センター
2 班 野矢小学校
3 班 淮園老人軽作業所



各会場7時半開始です。
みーんなできちよくれ！

『おでかけ議会』日程表

固定資産評価審査委員の
選任に同意



佐竹 宏治さん
70才 南山田地区

副町長の
選任に同意



甲斐 正敏さん
59才 野上地区

委員会構成紹介

■ 教育民生観光常任委員会

職 名	氏 名
委員長	佐 藤 博 美
副委員長	有 吉 富 生
委 員	井 上 里 子
〃	江 藤 一 幸
〃	藤 原 三 治
〃	日 野 康 志

■ 総務建設産業常任委員会

職 名	氏 名
委員長	小 川 克 巳
副委員長	大津留 敏 加
委 員	坂 本 憲 治
〃	佐 藤 勝 憲
〃	池 部 俊 慈
〃	土 井 眞 一 郎
〃	佐 藤 明 郎

■ 議会改革特別委員会

職 名	氏 名
委員長	江 藤 一 幸
副委員長	佐 藤 明 郎
委 員	佐 藤 博 美
〃	日 野 康 志
〃	大津留 敏 加
〃	池 部 俊 慈

■ 議会広報特別委員会

職 名	氏 名
委員長	日 野 康 志
副委員長	佐 藤 明 郎
委 員	井 上 里 子
〃	小 川 克 巳
〃	佐 藤 博 美
〃	池 部 俊 慈

■ 議会運営委員会

職 名	氏 名
委員長	佐 藤 勝 憲
副委員長	大津留 敏 加
委 員	井 上 里 子
〃	江 藤 一 幸
〃	小 川 克 巳
〃	佐 藤 博 美

総務建設産業常任委員会

審査報告

議案
16件
陳情
1件

可決された案件

災害派遣手当の支給に関する条例の制定については。

新型インフルエンザ等対策特別措置法が施行され、災害発生時に復旧や応急対策を実施するため他の自治体から派遣された職員に手当を支給するものです。



町民プールが計画される温泉館周辺

九重町過疎地域自立促進計画の一部変更については。

新たに「町民プール設置事業」を加え、中学校プールを兼ねた一般町民も利用できる施設をこのえ温泉館周辺に設置する計画等を加えるものです。

九重町コミュニティバス等運行事業に関する条例の一部改正については。

コミュニティバスの使用料は中学生以上一回三百円、小学生一回百五十円。6歳以下は無料ですが「障害者割引」として中学生以上百五十円、小学生一回八十円とするものです。



道路認定については。

梶屋菅原支線は、町道

梶屋菅原線から分岐し菅原天満宮までを結ぶ85・5mの区間と室園支線は町道室園線から分岐した20・4mで、いずれも認定しました。

簡易水道布設事業に関する補助条例の全部改正については。

町営水道の給水区域外で運営されている地区水道の施設の改修や水源確保が喫緊の課題となっていることを踏まえ、補助基準や補助対象を拡大するもので、給水戸数3戸以上から2戸以上に改め、補助率を事業費の30%以内から2分の1以内に引上げるものです。



町が所有することとなった森林組合加工所跡

財産取得については。

玖珠郡森林組合の木材製材加工所跡地で面積が約9278㎡と広く、静寂な場所であり、今後、企業誘致や定住促進など幅広く活用が見込めることから取得するものです。

九重町ふるさと館の指定管理者の指定については。

平成19年より指定管理者による運営を行ってきましたが、本年3月31日で期間が終了することから、平成25年4月1日以降の4年間を指定管理者選定委員会に諮った結果選定した「九重ふるさと館活性化協議会」代表飯田かよ美氏さんの指定について認定したものです。

その他

災害住宅資金貸付審議会条例等の一部改正について。

九重町災害対策本部条例の一部改正について。

九重町防災会議条例の一部改正について。

九重町水道事業の布設工事監督者及び水道技術管理者の資格等に関する条例の制定について。

九重町道の構造の技術的基準等に関する条例の制定について。

九重町準用河川管理施設等の構造の技術的基準に関する条例の制定について。

九重町町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について。

九重町町営改良住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について。

九重町道路占用及び占用料徴収に関する条例の一部改正について。

平成25年度組織機構の見直しや関係法律の施行に伴うもの等の変更や引用条項を修正するもの等で、可決することになりました。

審査報告

議案
8件

陳情
2件

可決された案件

九重町指定地域密着型サービスと介護予防サービスの事業に係る条例の制定については。

介護保険法等の一部改正に伴い、市町村が国の基準を参考にして条例を定めるものです。

九重町新型インフルエンザ等対策本部条例の制定については。

平成24年5月に新型インフルエンザ等対策特別措置法が公布され、市町村が国の基準を参考にして条例を定めるものです。

九重町温泉館・ふれあいプラザの指定管理者の指定については。

平成25年4月1日以降

の1年間にかかる当該施設の指定管理者に、夢・グループ企画の代表者日隈博美さんを指定するものです。

飯田中学校図書整備基金条例の廃止と、このえ緑陽中学校図書整備基金条例の制定については。

平成25年3月31日をもって「飯田中学校」が閉校になることから、同校図書整備を目的とした条例を廃止し、統合先の「このえ緑陽中学校」に基金を引き継ぐものです。

通学費補助に関する条例の一部改正については。

町内4つの中学校が「このえ緑陽中学校」に統合され、スクールバ

スによる通学となり、通学費の補助対象から中学生が除外されるため、改正するものです。



町内各地を巡る中学校のスクールバス

狭間生活改善センターの指定管理者の指定については。

平成25年4月1日以降の4年間にかかる指定管理者に、「狭間行政区、区長赤峰節也さん」を指定するものです。

陳情

大分県栄養士会、会長安部澄子さん外3名から出された「市町村管理栄養士配置に関する陳情」は。

市町村の保健・介護、国保、福祉部門に管理栄養士の正規職員配置を求める内容であります。各部門における管理栄養士の必要性は理解できますが、九重町の財政規模では、各部門への正規職員配置は困難であります。しかし、陳情の趣旨は充分理解できることから「趣旨採択」とし、今後も計画的な職員配置を行うことを要望することとしました。

みなさんの陳情は
こうなりました。

平家山区長 高岡秀和さんからの「平家山集会所の建て替えを求める陳情」については。

経年劣化により内外装や基礎その物も老朽化し、緊急時の避難場所として使用するにも不安があることから、騒音振動対策を施し、高齢化が進む地区の現状も踏まえ、バリアフリー化した集会所として建て替えを求めた。陳情であり、採択しました。



建て替えが採択された平家山集会所

川下南区長 内田正男さん他1名からの町道認定を求める陳情は。



町道認定が採択された五分市林道

地元が管理している五分市林道の町道認定を求めるもので、町道下右田竜門線の開通に伴い、松木地区の住民等が役場や大分方面へ向かう道路として、利用者も増えていることから採択しました。

ずばり町政を問う

5人の議員より一般質問

人財(材)育成 本気で取り組み

活動しやすい方向に



江藤
一幸

● 人財育成 本気で取り組み

江藤 『人財育成』の字を使っているが、人は材料で無く財産だ。今後は、『人財育成』としたらどうか。

人財育成の必要性についてどう認識しているか。

就農者研修支援事業補助金は、4年で500万から1000万へと毎年減額。

社会教育での人財育成事業利用者が少ないからと補助率を70%から90%へ変更するようだが、行政は町民へ研修先の提案をしているのか、大事なのは、問題点の洗い出しと次の仕掛けである。

● 人材育成は 重要課題！

町長 人づくりは町づくりだと言われている。人材育成は大変重要であるが、取り組みは大変難しいものがある。グループとしてまとめて活動し

やすい方向に持って行くのが行政の役目と考えている。

教育長 町民の皆さんの自治能力を高めて行く仕事に寄り添って行く全ての施策。事業を通して一緒に物を考えて行くことが人材育成だし人づくりだと考えている。

● 基幹産業の 振興に力を！

江藤 所得なくして定住無し。九重町は農業と観光をどう活気づけ意欲ある産業にするかがキーワードである。今の施策や仕組みでは、明るい兆しが見えない。現状をどう考えているのか。

また、町長等の特別職や職員の給与費の合計約11億円の数%を活用し地域振興、商業振興等に貢献できないか。

● 関係者や 担当課と協議

町長 農業の問題は、自分達で価格を決定する事が出来ない。市場の価格決定に右にならえであることから、行政でやれる

のは限られている。生産部会の人たちと協議しながら支援をしているのが現状である。

また、給与費の一部を活用して地域振興や商業振興等を行うことについては、私の一存ではどうすることもできない。提案があったことについては、組合等と協議していきたい。

● 町独自の 不妊治療支援を

江藤 結婚したが、不妊

で悩んでいる方もいる。相談事業や治療支援が不十分である。高度な治療では50～60万円要ると聞く。1回10万円の治療補助では少ない。町独自の仕掛けや仕組みを考えるべきだ。子どもが生まれれば1万人定住につながるのでは。

● 要請あれば 訪問する

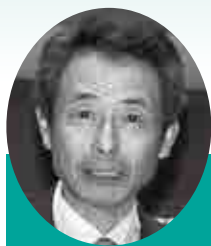
町長 21年度より助成を行っている。1回10万を上限とし2回まで、県内



商品券を使ってのお買物

では2回助成は竹田市と九重町だけである。デリケートな部分もあり、積極的に保健師を訪問させることは出来かねるが、今後、母子保健推進員や主任児童委員等にも積極的な周知で制度を広めていきたい。

具体的に聞きたいと要請があれば訪問もする。



佐藤
博美

役場職員給与高いのでは

全国類似町村の中では高いが、24年度は県内では下から4番目

● 役場職員給与 高いのでは

佐藤 九重町の職員給与は国家公務員を100として給与水準を示すラスパイレース指数が、23年度は102・7で全国の類似団体、51町村の中で一番高い、全国町村平均は95・3なので突出している。24年度は若干下がっていると思うが、この給与水準をどう考えているか。

● 全国の類似町村の 中では高いが 24年度は県内では 下から4番目

町長 九州は東北、北海道に比べて給与水準が高く、その中でも大分県が全体的に高い。類似町村の中では一番高いかもしれないが、24年は大分県の中では下から4番目、低い状況にあり今後ラスパイレース指数は100を超さないように対応している。

● 国会公務員給与 24年度から7・8% 引き下げ

九重町はどうする

佐藤 政府は東日本大震災の復興財源確保で国家公務員給与を平均7・8%引き下げたので、今九重町のラスパイレース指数は108になっている。政府は地方に国と同様の削減を求めている。13年7月からの地方公務員給与の削減実施を念頭に地方交付税を削減している。九重町はどうするのか。

● 7月の削減に向けて 労使交渉を

町長 地方公務員給与削減を念頭の地方交付税の削減には、6団体で異議を申し出ているが、国もカットをしているような状況の中で、今後県内の情勢を見きわめながら、県内の町村会や市長会と一緒に、7月に向けてこれから労使交渉をしていく。

● 電気自動車の充電設備を

佐藤 環境問題等によ

り、電気自動車やハイブリッド車が増えているが九重町に充電施設がないので福岡から来る人が、日田で一度高速をおりて充電をして九重に来ると

いう話を聞く。自然との共生を町づくりのテーマにしている九重町でもあるのでふるさと館に充電設備の設置を考えてはどうか。



電気自動車充電設備が望まれるふるさと館

● 国の補助事業を見ながら検討したい

町長 県内には一般開放の充電設備が18箇所あるが九重町にはない。

設置をするには数百万位かかるのではないかと。25年度に県が新エネルギービジョンを策定す

る。これに合致すれば3分の2の補助がある。また経済産業省の予算であれば2分の1の補助がある。今後の動向を注視しながら検討していきたい。

● 農業、観光、商業が 一体となった 組織づくりが必要

佐藤 九重町の発展のためには農業、観光、商業が一体となってまちづくりに取り組む組織づくりが必要である。地産地消や観光農業、農業体験等九重町の活性化のためには中心となる「コア」づくり、企画調整課と農林課、商工観光課が一体となって取り組まなければならないと思うが、どう考えているか。

● 将来のためには 重要な施策 事業化に向けて協議

町長 仮称の「九重地産地消連絡会議」を立ちあげ協議をしているが、進展がない現状である。

観光の分野でも新たな素材の発掘で着地型や体験型の観光を推進しなければならぬ。まだ方向性は見えていないが町の将来のためには重要な施策であるので、事業化に向けて協議をしていきたい。

佐藤 明郎



農業・雇用対策

とりくみが不十分だ

反省をふまえ実行に移す

● 町独自の農業振興策を

佐藤 厳しい状況が続く中、再三にわたり、九重町の農業振興を求める質問が議会に取り上げられている。

執行部は「行政だけの力ではむずかしい、県や農協と協力して取り組みたい」と回答をしているが、私の調査では、具体的な会合は行われておらず、積極的な姿が見られない。

また、将来的に不可欠と思われる集落単位で支え合い農地を守る手段、営農組織や人・農地プランへの取組みにしても、農協との連携不足が明らかに見られる。

特に山間部の多い九重町において、今やらねば大変な状況が心配される。

● 実行に移したい

販売戦略も含め、町独自の振興策を検討するための具体的行動を取るべきでは。

町長 一番重要なことである。農協、森林組合、商工会、そういうところ

と密に連携し、今までの取組みを反省し、今後は実行に移していきたい。

● 雇用対策は町の責任で

一年前の議会で私は、

企業誘致に対する町の対応の甘さを指摘したが、その後、誘致のための優遇措置を整備し、インターネット等を活用し情報発信しているという。私は、情報発信つまり待つだけではダメだと言いたい。

国全体の経済情勢が悪

● 今後の課題

若者が働く場を地元で確保することは、町が唱える「一万人定住」には不可欠である。町政の責任をもっと行動で果たすべきだが。

町長 企業からの打診はあるので、今回の優遇策で、誘致の確率も上がっ

ていくだろうと思う。具体的にはこれからの課題である。

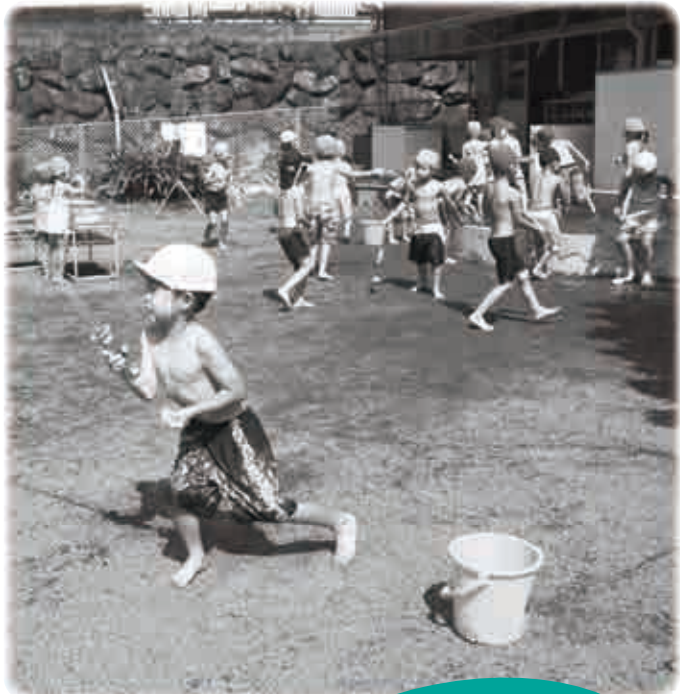
● こども園の今後は

佐藤 こども園の施設は老朽化しており、町民に我慢をしてもらっている。早急に対応をすべきでは。

教育長 今年度、基本計画を作り上げる。

佐藤 民営化の可能性はあるのか。

こども園は現在公立で運営しているが、様々な課題もある。受入自体に制限、保育する曜日や時間の制限、これらは公立



九重町の宝たち
元気いっぱいの
こども園

● 施設整備が第一

教育長 一番良い方法は、

しっかりと民間法人に受けていただき、町も支援しながら保護者が望む中身になることが大切と考える。

しかし、今は一日も早く施設整備をすることが先決である。

であるがために、厳しい現実がある。一方民営であれば、受入範囲、保育曜日、時間もずい分と自由で設定できる。

施設整備費や運営費といった補助金も充実している。町民は民営化といえど不安を感じる面もあると思うが、法律で行政がしっかりとサポートすることも義務付けられており、理解も得られると考える。

子育てをしやすい環境を作ることは、保護者の

において、早急に調査、研究をはじめべきでは。

ためだけに止まらず、定住一万人に向けた町のためにも重要課題であると思う。

教育委員会に



有吉
富生

県道飯田高原中村線の早期復旧を 県、国への要望強める

● 県道飯田高原 中村線の早期復旧を

有吉 県道飯田高原中村線の災害復旧について、平成17年発生の災害が仮復旧のままで、土木事務所との協議は、町の考えや対応策は。

● 県・国への要望 強める

町長 隣接地権者の同意が得られず推移しているが、国、県と工法も含め協議中であり。土地に問題があっても法律で復旧できるような、県、国へ要望している。また、県と協力して地権者と交渉していく。

● 県道飯田高原 中村線の改良 計画について

有吉 現在多くの工事がされているが町民にも計画を知らせるべきでは。

● 27年度に完成予定 3件で30億円

町長 現在3ヶ所工事中であり、野上交差点付近は27年完成予定、河内の町水道配水池付近は27年完成予定。また、飯中先バイパス完成27年予定であり事業費3件で約30億と聞いている。



一日も早く復旧が望まれる飯田高原中村線

● 生涯スポーツ について

有吉 町内のスポーツ活動を通じて地域活性化を図るべきと考えるが、衰退している現状をどう捉えているか。

町長 スポーツで地域の交流、活性化につながるが、現在の社会的な事情等からか以前みたいな活発なものではない。地区ごとに差はあるが活動が停滞していると思う。



すこやかスポーツ駅伝大会で一斉にスタートする選手

● 公民館職員を 活用して

有吉 地域活性化に向けた、スポーツ振興に町としてどう取り組んでいくのか。

町長 各体育協会は行政から独立して運営しているが、行政の支援がなければ活発な運動もできないと思う。今年度から公民館にも職員が配置されることから、関係者と協力してスポーツ振興を図っていく。

● 地域福祉の推進 について

有吉 福祉施策に取り組む、町の現状と課題は。

町長 少子高齢化、過疎化が大きな課題であり、それぞれにおいて問題が多いが、昔であれば地域や家庭で賄いができていた。今は行政や他の機関での支援が必要となっているのが、大きな町の課題と捉えている。

有吉 町として厳しくなる地域福祉の推進をどう図っていくか。

● 見守り事業や 電話相談で

町長 第4次総合計画に沿って検討し、今年度から高齢者見守り体制事業として75才以上のひとり暮らしの方に見守り機器を設置する。また24時間365日対話できる電話相談にも取り組む。福祉関係のメニューも町の広報紙等で知らせる。

4度目の質問、アンケート調査を!

声を聞くのはやぶさかでない



藤原 三治

玖珠町シルバー人材センターを設立します
 ■シルバー人材センターでは、こんな仕事と考えられます。

屋内外一般作業	= 草刈り/除草/樹木のせん定・消毒/農作業/土木作業/清掃など
技術を要する分野	= 障子・ふすま/簡単な大工仕事/ペンキ塗り/植木手入れなど
サービス分野	= 家事援助/子育て支援/観光ガイド/福祉サービスなど
事務分野	= 文書管理事務/毛筆筆耕/宛名書き/受付事務など
折衝・外交分野	= 広報誌等の配布など
管理部門	= 施設等の管理・監視など
専門技術分野	= 家庭講師/パソコン指導/経理事務など

■アンケート集計結果

昨年10月に、60・70・80歳代から各300人ずつ900人を抽出して、シルバー人材センターについてのアンケートを実施しました。回答者は、426人、回答率47.3%でした。

設立に対して大変関心があり、早期開設を望む意見が多くありました。

問 シルバー人材センターを設立することについて

回答 良いことだ 398人 (93.4%)

問 シルバー人材センターへの参画意向について

回答 参加して働きたい 115人 (27.0%)

問 シルバー人材センターに仕事を依頼しますか

回答 依頼を検討したい 204人 (47.9%)

回答 依頼しないだろう 146人 (34.3%)

問 どのような仕事なら参加してみようと思いますか

回答 屋内外一般作業 68人 (16.0%) 折衝・外交分野 33人 (7.7%)

事務分野 28人 (6.6%) 管理部門 26人 (6.1%)

問 どのような仕事なら依頼してみようと思いますか

回答 屋内外一般作業 150人 (35.2%) 技術を要する分野 86人 (20.2%)

玖珠町のシルバー人材センターについてのアンケート結果

● シルバー人材センターの設置も

● 調査もやぶさかでない

藤原 今回、玖珠町でもシルバー人材センターを立ち上げたことで、九重町は県内で唯一の無設置地域となった。高齢者の経験や知識を生かした事業であり、幾度か質問を重ねてきたが一向に進んでいない。アンケートを取るなどして前向きに取り組むべきでは。

町長 国で定めた基準があり、適合すればA〜Cランクに合せて補助金が出る。これまで、老人会等で説明してきたが、特に要望がなかったと聞いている。アンケートについては、機運が高まれば、今後考えたい。



玖珠町シルバー人材センター

● PM2.5周知対策は十分か

藤原 中国からの微粒子汚染物質PM2.5がもたらす健康被害は大丈夫か。安全基準に対する町民への周知対策はどう考えているか。

● 防災無線で対応したい

町長 県は順次、日田、大分で計測し、情報はホームページで流している。町もまだ放送は行っていないが、基準値を超せば呼吸器系や循環器系の疾患のある方や、子どもや高齢者など、影響を受けやすい人のためにも、防災無線により注意喚起を行う。



設置されたエンジンブレーキの看板

● バス事故再発防止対策は

藤原 事故のあった交差点は、過去にも、大型車の横転による事故が発生している。現場は長い下り坂で、その下は、JRの線路があり、一歩間違えると大惨事になりかねない。再発防止に町はどう



事故のあった交差点付近

● 看板を設置し再発防止に努める

町長 対策会議でいろんな意見が出たが、実用的効果、設置場所等を考えて、退避場所より、「エンジンブレーキ使用」の看板を5本設置することとなった。吊橋ではポスターやチャラシの配布を行う等の注意喚起を行っている。他の路線については再度警察等と協議しながら検討したい。

あたしのひとこと

中学閉校に想う

東飯田
本松 貴裕さん



この東飯田に生まれ、15年を過ごしてきました。まだまだこれからですが、それでもたくさんの方とを学び、たくさんの方に出会い、たくさんの方の思い出が生まれました。

思い出の大半は、やはり何となく、この中学校のことです。だから、正直に言えば閉校すると聞いたときは大きなショックでした。

胸が潰れるほどの思いが心の底からこみ上げてくるのを感じています。

東飯田中学校は、人数は少なくても、何事にも真剣に、全校生徒が協力し、支えあいながら取り組む姿勢はどこにも負けていません。

いえ、人数が少ない分、一人ひとりが主役として輝いていました。この学校だからこそ出来ることがあり、この学校だからこそなし得たことが、たくさんありました。それは、諸先輩方より積み上げられた良き「伝統」でもあります。

私たちに与えてくれたたくさん詰まった「母校」がなくなることは、やはり寂しく、また悲しいことです。しかし、東飯田中学校の閉校は、次の新しい時代に向けての第一歩であると感じています。

一・二年生の皆さんは、東中のよき伝統を受け継ぎ「このえ緑陽中学校」でさらに進展させていくって下さい。

最後に、私たちを支え続けてくださった多くの方々への感謝の思いとともに「このえ緑陽中学校」に夢を託します。

学舎に 色とりどりの 想いはせ
じっと見つめし「今、ありがとう」



東飯田中学校の閉校式

まちは観光から

南山田
矢野 陽一さん



宝泉寺温泉では『新春花火ザ宝泉寺』にはじまり、春は『お福祭り』初夏は『蛸祭り』秋は『素人芝居』『観月祭』と様々なイベントを季節ごとに催しています。一昨年の震災から始まり、昨年の大豪雨と観光を営むものとしては非常に厳しい時期を過ごしましたが、今年に入ってから雰囲気も徐々に上向きになり、こういったイベントを通じて宝泉寺温泉を知ってもらい多くの観光客が訪れて頂けるよう期待しています。

そして今大分県では『おんせん県』として全国に大分の温泉をPRしています。その中でも宝泉寺温泉では一昨年春、全国で9番目、九州では2番目に『源泉掛け

流し宣言』をし、まさに「宝の泉」で売り出しています。

観光は町を潤わせる大きな武器です。観光が良くなれば観光業者だけが良くなるのではなく湯布院のように観光地がブランド化されれば、そこで生まれた農産物や加工品も売れ、そこに雇用も生まれることもあるかもしれません。しかしそこに到達するのは簡単ではありません。

ただ宝泉寺温泉、九重町には本物があります。雄大な山並み、風そよぐ草原といった自然。肥沃な土地で育つ作物。こんこんと流れ出る温泉。清流に舞う蜋。

その魅力をしつかり、うまくPRする。そういったことが今私たちに必要な事だと感じています。その効率的な方法をもっと考えていかなければいけません。

行政と民間で協力しながらより良い観光地を目指し宝泉寺だけでなく九重町に沢山の観光客にお越し頂き、交流人口がもっと増えるように切に願ひ私の一言とさせて頂きます。



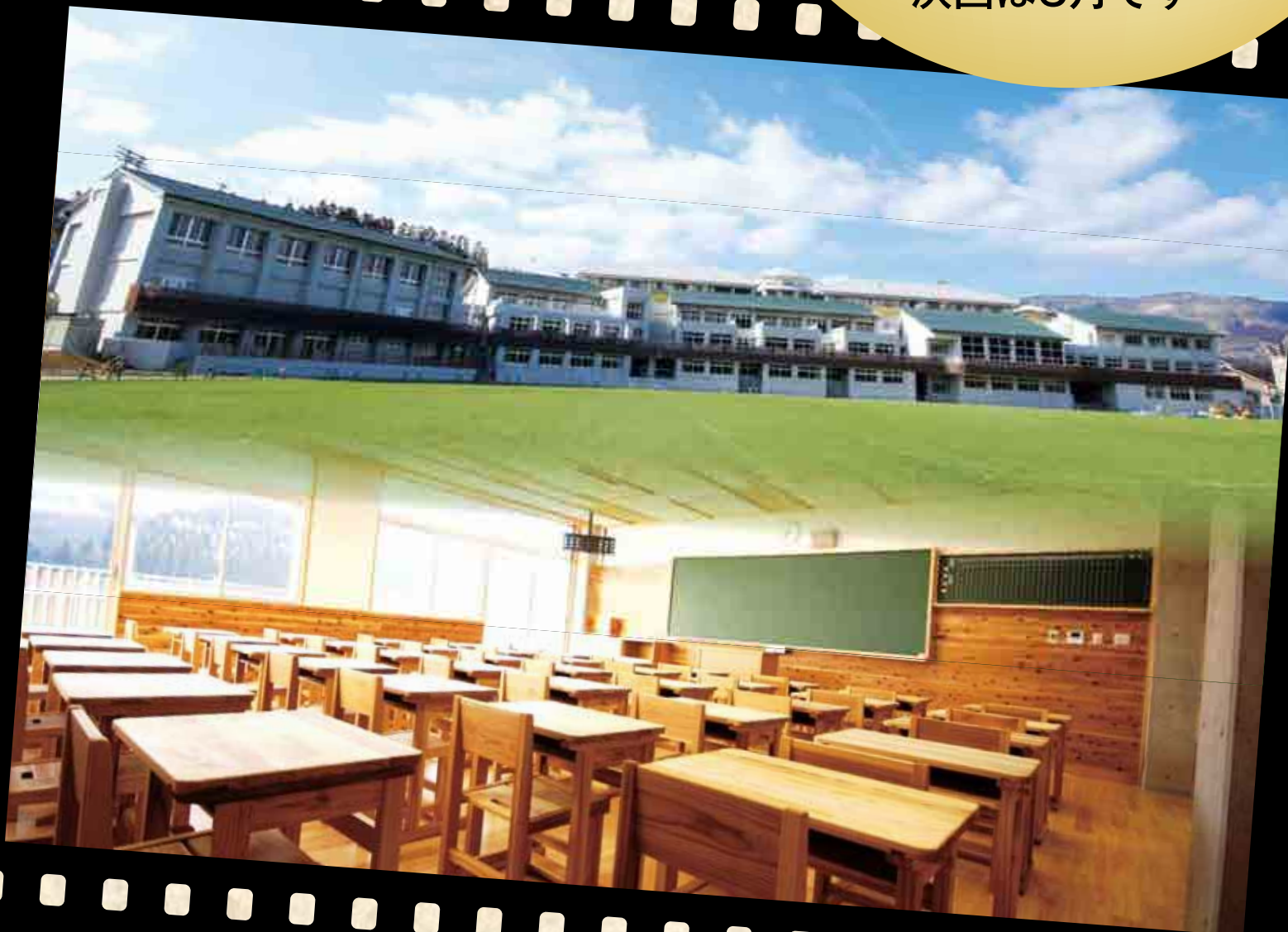
ホタルによる“まちづくり”

開校

このえ緑陽中学校

傍聴へ
どうぞ

次回は6月です



議会だよりについて

ご意見をお聞かせください。【議会事務局：76-3814】

編集
後記

◆ 3月議会も終了し今年度の予算約64億8千8百万円、特別会計31億9千2百万円を可決したところです。

一般質問や各常任委員会、また予算質疑等でも各議員より多くの質疑が交されました。住民のみなさんから見ると、執行部の提案に対して議会は追従しているのではとの意見もあります。が、どうしてもして多くの質疑が交されています。ぜひ一度、議会の本会議や各常任委員会を傍聴してください。

議会は、議論する場であり方針を決定する場です。私たち議員は、責任を持って対処していきますので、今後もみなさんの意見を聞かせてください。

日野 康志

・ 広報委員長 日野 康志
・ 副委員長 佐藤 明郎
・ 委員 井上 里子
・ 委員 小川 克巳
・ 委員 佐藤 博美
・ 委員 池部 俊慈